

人類生態班 B

ドンバング村の概要

岩佐光広 (千葉大学大学院)

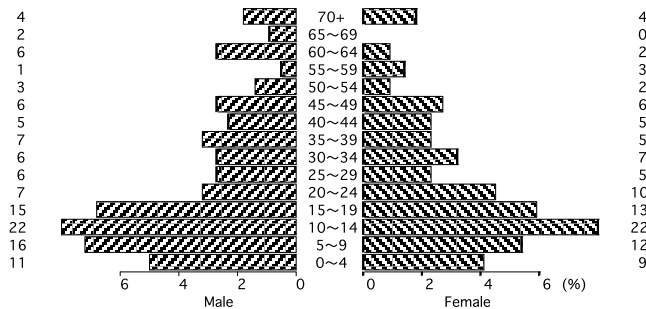
金田英子 (長崎大学熱帯医学研究所)

マニトン・ボブグロクナム (ラオス国立公衆研究所)

ティエングカム・ボングボングサ (マラリア研究所、サバナケット)

調査期間：2004年2月19日 ~ 3月2日

1. 人口および世帯構成

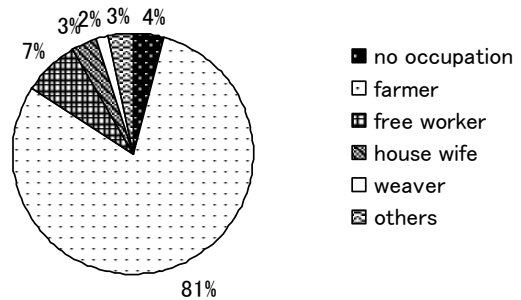


ラハナム地域の南に位置するドンバング村は、南北約 600m、東西約 100m で、人口 222 名 (男 117 名、女 105 名)、世帯数 39 世帯である。民族は、85%以上がプータイ族である。

1995 年に政府は大規模なセンサス調査を実施しており、おおよそ各世帯は、構成員を記入したセンサスノートを持っている(上記写真)。登録は、生年月日も含め個人の申請によるものなので必ずしも正確とは言えないが、調査をする上では参考になる。

2. 職業

幼児および現在通学中の者、計 101 名を除いた村人の職業は、81%が農業であった。日本を初めてとする他国の援助で、大規模な灌漑用水が完備されているため、二毛作が可能であることも影響している。



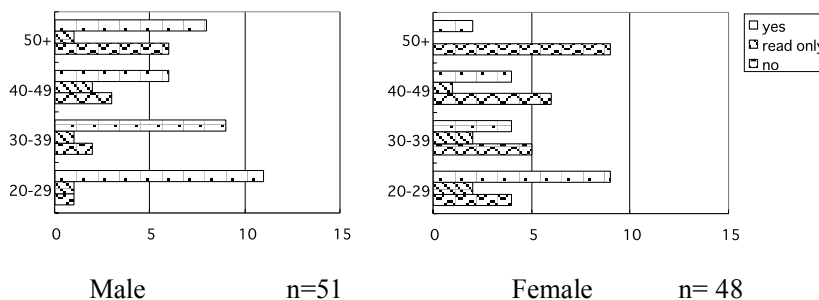
3. 教育

3-1. 教育レベル

SEX	age	no education	student (now)	Primary school				Secondary school
				grade 1 and 2	grade 3	grade 4	grade 5	
male	6-9	3	8					
	10-19	3	22	5	2	1	2	2
	20-29	1	2	3	2		3	2
	30-39	2		2	2	1	5	1
	40-49	3			3		2	2
	50+	7				2		2
Total		19	32	10	11	2	15	9
female	6-9	3	8					
	10-19	2	27	1	2	1		2
	20-29	1	2	4	2		2	4
	30-39	4		1		2	2	2
	40-49	6			1	1		2
	50+	8			1	1		1
Total		24	37	6	6	5	4	11

20 歳未満で教育を受けていないものは男 6 名、女 5 名で、合計すると 20 歳未満の人口の約 17% である。20 歳以上で中等教育まで修了した者は、約 26% であった。

3-2. 識字



男性の場合 20 歳代で読み書きのできる者は 13 人中 11 人、50 歳代以上では 15 人中 8 人、同様に女性の場合、前者は 15 人中 9 人、後者は 11 人中 2 人であった。

4. 経済

4-1. テレビ、バイクと自転車の保有

村には電気が普及している。娯楽の一つにテレビがあるが、裕福な家庭にしかない。また、バイクも裕福な家庭が所有している。一方、自転車か乗合タクシーまたはトラクターの利用が、一番身近な村の交通手段となっている。経済状況の指標として、所有者数がどのように変化してきたかを調べた。

テレビ、バイクともに年々所有者数が増加傾向にある。また、自転車は、村の約 7 割が所有している。

	Television (n=39)	bike (n=38)
yes	16	34
no	23	4
Purchase (year)		
less than 1	3	1
before 2	-	1
before 3	1	-
before 4	1	-
before 6	1	-
before 7	1	-
before 8	2	-
before 10	3	2
before 12	1	-
before 15	3	-

bicycle (n=38)	
Number	Number of holder
0	12
1	22
2	3
6	1

4-2. 家畜

所有している家畜は、鶏、あひるが多く、ついで水牛、牛であった。また、犬も多くみられた。

	n	number of holder	number of animal
buffalow	39	25	78
duck	39	27	161
chicken	39	31	482
cow	37	16	99
pig	34	7	12
dog	39	27	71
cat	39	5	6
goat	38	4	29
rabbit	38	3	11
bird	38	5	11

4-3. 収入

	(n=37) no income	selling alive	selling goods	saraly	others
0	4				
50000		14	2		1
60000-100000		3	3	1	
110000-200000		2		2	
210000-300000 +		2		2	1
Total	4	21	5	5	2

現金収入は月 50,000 キップ (約 6 米ドル) 以下が最も多く、家畜を売り、現金化する方法が全体の約半数を占めていた。ちなみに、ソンコン郡でのゲストハウス滞在費が 1 日 35,000 キップ、ビエンチャンからサバナケットまでの直行バス運賃が 50,000 キップである。

5. 蚊帳

蚊帳の普及率はマラリア・コントロール・プロジェクトの成果もあり、全世帯がいずれかのサイズを1つ以上所有していた。しかし、それらが実際にどのように使用されているかは、今後のさらなる調査が必要である。

Number	Number of holder		
	Family size (n=35)	double size (n=36)	Single size (n=33)
1	17		12
2	7	2	9
3	5		5
4	3		1
5	1		
6			1
total	33	2	28

6. 母子保健

6-1. 乳幼児死亡の原因

Number of dead	Contents of Child Death
1	3rd son died at 1year, Don't know(DK) cause of death, but he had fever before died
1	1st Son of 1+2 died after 4days birth, D.K. cause of death, but this child always cried before he died
1	12 years birth (1992), Clonic Fever
1	first son, 3months, Fever
1	2nd son, 1mounth, DK
1	first parson, 2months, Fever of unknown (oct, 2003)
2	1st: 7days, DK; 2nd 4mounths, Fever of unknown
2	3rd parson was died after 3years birth, 7th parson after 3 mounths birth, 3rd&7th:feaver of unknown
2	First and Second sons died when they were 2 mounths
4	1st parson of 4, 6y, fever; 2nd parson, 3d, DK; 3rd parson, 3d, DK; 4th parson, 2d, DK
7	1st: 2mounths, DK; 2nd: 1month, DK; 3rd: less than 1mounth; 4th: 6mounths, Fever of unknown; 5th: 2months, Fever of unknown; 6th: less than 1mounth, Fever of unknown; 7th: 2days, DK

出産経験のある女性を対象に、子どもの死亡数および死亡原因を聞取った。多くは、原因不明の発熱で死亡している。現在 47 歳で、12 人出産しうち 7 人の死亡が最多であった。

10 年前より、イエローカード（ベビー用）とブルーカード（妊婦用）の制度が導入され、健康診断や予防接種などの記録を記すようになっているが、各家庭での保管状況が悪く、紛失しているものが多かった。

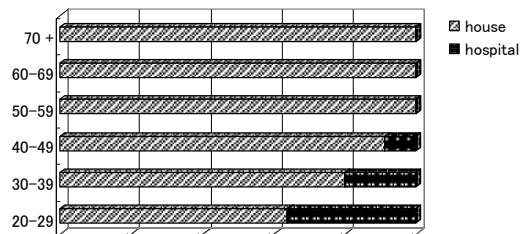
age	Number of deliveries (Married Women: n=45)								Total
	0	1,2	3,4	5,6	7,8	9,10	11,12	13	
20-29		8	3						11
30-39		2	5	3	1				11
40-49			2	3	2	3	1	1	12
50-59		1	1		2		1		5
60-69		1		1					2
70+			1	2		1			4
Total	0	12	12	9	5	4	2	1	45

6-2. 出産回数

最多で 13 回、12 回が 2 人いた。4 回以下が半数を占めているが、今後も出産の可能性のあることから、平均出産回数の年代別推移を考察するには、追跡調査が必要である。

6-3. 出産場所

若年者ほど、病院での出産が多くなる傾向にある。本来、ヘルスセンターも出産場所の一つであるが、当地域ではヘルスセンターが事実上、機能していないことから、ヘルスセンターでの出産は見られない。



6-4. 流産

妊娠経験のある女性を対象に、流産の回数を聞取った。最多で 42 歳の 3 回、20 歳代では該当者はいなかった。

age	Miscarriage				Total
	0	1	2	3	
20-29	11				11
30-39	9	1	1		11
40-49	9	1	1	1	12
50-59	3	2			5
60-69	2				2
70+	3		1		4
Total	37	4	3	1	45

6-5. 出産介護

n=36	no	VHV	husband	TBA	relative	doctore	neighbor
20-29		5			2		
30-39		2	5		1		1
40-49		2	4		4	1	
50-59	1	1	1				
60-69			1	1			
70+			3	1			
Total	1 (2.8%)	10 (27.8%)	14 (38.9%)	2 (5.6%)	7 (19.4%)	1 (2.8%)	1 (2.8%)

(VHV: Village Health Volunteer, TBA: Traditional Birth Attendant)

出産時の介護者については夫、つづいて村のヘルス・ボランティアが多かった。「夫」が具体的にどのように関わっているかは、出産場所を加味し、再調査が必要である。

6-6. 家族計画

何らかの方法で避妊を行っている者は、全体の約半数であった。多く見られた避妊の方法は、ホルモン注射であった。2001年に実施されたラオスの健康状況調査報告書（国立公衆研究所発行）では、国全体では経口避妊薬が68.3%と最多で、ホルモン注射は第3位の58.8%と報告されているが、当地では圧倒的にホルモン注射が多い。どのような機会に、どこで接種しているのか、また、どのような経緯でホルモン注射を避妊の方法として選択しているのかまでは、今回は聞いていない。

n=34	no	condome	Injection	Sterilization	pill
20-29	3		8		
30-39	4	1	5		1
40-49	8		3	1	
Total	15	1	16	1	1

7. 生活時間調査

センサス調査実施の際、訪問時に世帯構成員が何をしているかを記録した。各世帯を2回訪問し、その活動項目を集計した。本来は村の規模から推して、一定の時間帯に全対象世帯を順次訪問する方法が望ましいが、そのための時間がとれなかったため、まずは村全体の生活行動を大雑把に把握するため、この方法を用いた。その結果、午前8時台から11時台、午後1時台から3時台と記録の時間に限りがあるが、食事や水浴び、洗濯などの衛生活動は、この時間帯にほとんど行われていない。また、籠を編むなどの竹細工は男性のみ、綿花からの織物は女性のみと、性差による行動の違いが明らかである。さらに、調理の際は薪を主に使用しているが、薪集めもこの時間帯には見られない。この時間帯以外の行動や、各行動の詳細を観察するためには、長期にわたり村で生活しながら調査をする必要がある。

CONTENT	SEX	Time							Total
		8	9	10	11	13	14	15	
feeding animal	male		4	4	1	5	4		18
	female			4					4
field	male	5	7	8	3	7	4	2	36
	female	5	7	3	2	6	1		24
go around the house	male	1	7	2	1	5			16
	female	1	2			1	1		5
housework	male		3	1		1			5
	female		2	2	1	1	1		7
sitting	male	1	4	4	4	5	2		20
	female	4	14	7	6	5	4		40
weaving cotton etc	female	2	4	6	1	4	2		19
weaving basket etc	male		2	2	1	2	1		8
out of village	male	2		1	1				4
	female			1			1		2
play	male		1	5		3	5	3	17
	female				1		4		5
rest	male		1	1			2	1	5
	female	2		1		3	1		7
sleep	male		1	1		5	2		9
	female	1	2	3	1	3	2		12
study	male	5	15	15	2	3	4		44
	female	6	17	11	15	4	5		58
with someone	male	1	1	2		2	1		7
	female		2	1		2			5
work	male	2	1	5	2	2	1		13
	female	1		1	1				3
bath	male					1			1
	female						1		1
eat	male		2			1			3
	female		1						1
fishing	male		1		1	1	1		4
visiting relative	male		2	2	1		1		6
	female		1	3					4
Watching TV	male		1			1			2
	female	1					8	2	11
others	male		1	6		3			10
	female		1	4					5
Total	male	17	54	59	17	47	28	6	228
	female	23	57	43	28	29	31	2	213

8. 水糞調査

Jars	Total No.		No water	Only water	Water+larvae
	Big Jars	Small Jars			
	105	52	45	84	28

Drums	Total No.		No water	Only water	Water+larvae
	Steels	Plastics			
	9	3	2	9	1

The total number of jar = 169

House Index = 71.79%

Container Index = 17.16%

Breteua Index = 74.36

(+ve container/100HHs)

村には上下水道が完備されておらず、公衆の水道ポンプが1箇所、個人のポンプが6箇所設置されている。参考までに、トイレは個人のもので2カ所ある。各民家ではドラム缶や水糞に溜めた水を利用しているため、貯水容器（水糞やドラム）にボウフラがわき、それがデング熱発症の原因となる。ラオスではデング熱が深刻な問題になりつつあり、人口約79万人のサバナケット州でも、2002年には3,400人（うち死亡者21人）、2003年には7,500人（うち死亡者50人）が報告されている。デング熱やマラリアの発症は4月から9月にかけて多く、ピークは8月をむかえる。

乾季の2月は水糞の利用も低く、貯水容器の使用が全体の約7割となっている。世帯数に対する幼虫の陽性率は約70%、容器数に対しては17%であった。今後は雨季との比較をする必要があると同時に、貯水容器を洗い幼虫の発生を防ぐ指導が必要であると考えられる。

今回は滞在期間の関係から1村しか村落調査ができなかったが、2004年夏までには、残りの5村に対しても同様の調査を実施し、基礎的情報を整理・共有した上で、ユニットごとの調査ができるようにしたいと思う。